

HAC路線維持「確認中」

道、日航社長発言受け

日本航空による北海道工
アシステム(HAC)の再
子会社化に向けた道の債権
放棄案の本格審議が14日、
道議会予算特別委員会で始
まった。日航の植木義晴社
長が13日、記者団に現行路
線維持を明言しなかったこ
とを受け、路線維持をどう
担保するかが議論の焦点と
なった。議会側は、道と日

航の認識がどの程度一致し
ているのかをただしたが、
道は、植木社長の発言の趣
旨を「確認中」と答弁する
にとどめ、議論は平行線を
たどった。
道は、路線維持を前提に
再子会社交渉を進めている
としているが、植木社長は
13日、札幌市内で「なるべ
く維持するように考える

が、安定した経営が必要な
ため、あらゆることを含め
て検討する」と述べ、明言
を避けた。この発言につい
て自民、民主、共産の計4
氏が取り上げた。

各氏は「これまでの経緯
と違うのでは」「非常に不
安を残す」と懸念を表明。

共産党の真下紀子氏(旭川
市)は、路線維持などに関
する認識について、日航と
確認の文書を交わすよう求
めた。道の渡辺直樹航空局
長は「発言の内容、趣旨に
ついて現在確認をしてい

る」と述べた上で、文書で
の確認も日航と調整してい
るとした。

民主党・道民連合の梶谷
大志氏(札幌市清田区)は、
1億円を限度とする債権放
棄以外に、再子会社化に向
けて新たな道の財政負担が
生じないかも質問。道側は
「HACの経営をさらに改
善するための支援は想定し
ていない。新たに道民負担
が発生することはない」と
答えた。次回は、18日の同
委員会の知事総括質疑で審
議する。